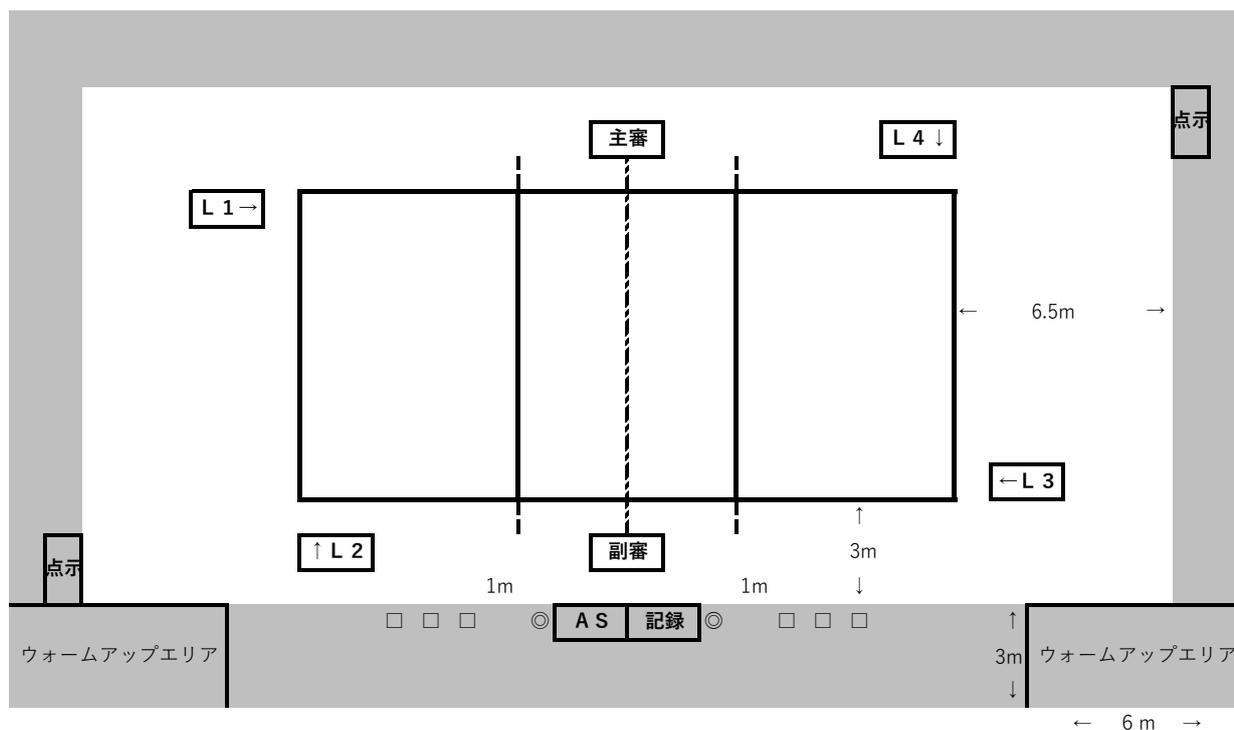


審判上の確認事項

1. 本大会は、2021年度（公財）日本バレーボール協会6人制の競技規則および（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における6人制ルールの取り扱いを適用する。
※リベロプレーヤーシステムについては、（公財）日本中体連バレーボール競技部における『リベロプレーヤーシステム』についての付則に準ずる。
2. ボールの空気圧は、0.30～0.325 kg/cm²である。
3. 服装 ※（公財）日本中体連バレーボール競技部『全国大会参加チームのユニフォームの規定について』に準ずる。
 - （1）選手のユニフォームについて、ジャージ、ショートパンツ、ソックスは清潔で同じ色に統一していなければならない。
 - （2）リベロプレーヤーは、正規の選手と明らかに色の異なったもの（対象色）を着用する。判別が難しいと判断された場合は着替えるかりベロベストを着用しなければならない。
 - （3）監督・コーチ・マネージャーは統一されたものを着用する。但し、生徒がマネージャーの場合、選手と同じトレーニングウェアでも良い。それぞれ左胸にワッペンをつける。
 - （4）ベンチスタッフ、控え選手、サポートメンバーは、必ずマスクを着用すること。
4. プロトコールについては、別表の通りとする。
5. 監督およびチームキャプテンは、トスの前後に記録用紙にサインをする。また、リベロプレーヤーを登録するチームの監督は、そのプレーヤーの番号を記録用紙に記入する。筆記具は持参する。
6. 公式練習を含め、競技場内には正式にエントリーされたメンバー以外は立ち入りを認めない。
7. ウォームアップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
8. セット間はエンドライン側のフリーゾーンでボールを使用することができるが、隣のコートへの妨げにならないように注意し、パス程度とする。
9. スポーツマンとしてふさわしくない行為はしない。（威嚇や暴言、相手チームに向かってのガッツポーズなど）
10. 試合中、1ラリーごとにボールを交換する。（記録席側の担当役員が消毒）
11. 試合中のワイピングは、原則としてコート内の選手がタオルを携帯し行う。モップは、必要に応じてタイムアウト中とセット間および審判が必要と判断した場合（範囲が広くタオルで拭ききれない、等）使用する。
13. 監督は、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの範囲内で、立ち上がりあるいは歩きながら指示をすることができる。ただし、ラリー中はベンチに座る。
※競技3日目（特設コート）は、監督のみラリー中も立ち歩いて指示することができる。但し、判定の妨げとならないよう、また線審とのソーシャルディスタンスを保たなければならない。
14. タイムアウトは、監督がハンドシグナルを明確に示して要求する。
15. セット開始時のコート内での円陣は、スターティングラインアップの確認前に行う。（コート内で円陣を組めるのは、スターティングラインアップの6名と登録されたリベロプレーヤーのみである。）
16. リベロプレーヤーの交代は、交代する2人がサイドライン上で一旦止まって片方の手を高く挙げてから交代する。
17. コートチェンジは行わない。
（補足）生徒役員について、競技1日目は、第1試合は同コートの第2試合のチーム、第2試合は第1試合のチームから、トーナメント上記のチームが線審4名、下記のチームが記録1～2名、点示2名を行う。状況によっては、競技2日目も同じコートで行う可能性がある。

令和3年度 第56回関東中学校バレーボール大会 競技場レイアウト



1. フリーゾーン（公式練習・競技を行う場所）はエンドラインより後方6.5m、サイドラインより外側3mである。
エンドライン後方6.5mにラインを引き、可能であればサイドラインの両外側にシートを敷く
※どちらも競技場は全て左右対称
 2. ラインは5cm幅で、色は「明るい色」（白・黄色等）、または床面と明らかに判別できる色とする
 3. 消しテープはコートラインと明るい色が交差する場所を15～20cm消す
また、フリーゾーン内に支柱の穴（金具）や木のささくれなどがある場合は消しテープで塞ぐ。
 4. ベンチ（椅子）はスタッフ用で、アタックラインの延長戦より後方1～1.5mに監督用、1m間隔で計3台置く
 5. ウォームアップエリアは、フリーゾーンの外側で壁から6m×3m、
ラインテープで区画する（エンドラインにかからないように）
 6. 記録席の左右に、ボール消毒役員の椅子を置く
 7. ネットは上下白帯、補助ロープは上下の白帯を緩ませない。
他2本は黒い網目の上から4マス目、下から3マス目に取り付ける。
 8. サイドバンド5cmはサイドラインに垂直、アンテナはその外側に取り付け、
試合中外れないようにビニールテープで固定（紅白の白い部分）
 9. 得点版はフリーゾーンの外側、ラインジャッジ2・4番の後方に置く。イン側中央）
 10. 柄付きモップは、ウォームアップエリア内に1本ずつ置いておく
- ☆ 競技3日目特設会場は、特設コートはサイドラインより5m外側
フリーゾーンがフェンスで囲まれている場合、得点版は後方中央に設置

(別紙)

プロトコールについて

【3セットマッチ・コートチェンジなし】（試合開始前後・セット間・終了後の手順）

<試合開始前>

	チーム	主審・副審
試合前	両審判員のネット等のチェック時は、ネットを使用せずにウォームアップをすることができる。	両審判員は、ネットの高さ・張り具合・アンテナの位置及びサイドバンドの位置をチェックする。
11分前	監督は記録用紙に記載されているメンバーを確認し、サインをする。 チームキャプテンは、トスのために記録席に行く。 トスの後、記録用紙にサインをする。	主審は、記録席前で副審を立ち会わせてトスをする。 副審は両チームのキャプテン・監督を記録席に導き、記録用紙にサインをさせる。
10分前	両チームが一緒か、または個別に（サブ権を得たチームから）公式ウォームアップを開始する	主審は、公式ウォームアップの開始をホイッスルする。 そして、ボール、スコアシート、ブザー、ユニフォームなどのゲームに必要な道具のチェックをする。 ラインジャッジ、ボールリトリバーとの打ち合わせを行う。 副審は、公式ウォームアップの計時を行う。
7分前	個別に公式ウォームアップを行っている場合は、交替する。	副審は、各チームが個別に公式ウォームアップを行っている場合は、その交替をホイッスルで合図する。
4分前	公式ウォームアップを終了し、各チームのメンバーは速やかにベンチに戻る。	主審は、公式ウォームアップの終了をホイッスルで合図する。
3分前	全プレーヤーは、エンドライン上に整列する。 <各試合、紹介のアナウンス> 主審のホイッスルで、両チームがその場で挨拶（一礼）をする。 その後、各チームのメンバーはベンチに戻り、スターティングプレーヤーはユニフォーム姿で待機する。	主審は、両チームのプレーヤーをエンドライン上に導く。 主・副審は審判台の前で、ネットを挟んで記録席側から見て左側に主審、右側に副審が位置する。 両チームが整列し、 チーム紹介のアナウンスの後 、挨拶を交わすようにホイッスルする。 審判役員はそれぞれの定位置に着く。
1分30秒前	主審のホイッスルで、スターティングプレーヤーはベンチから直接コートへ入る。	主審は、ホイッスルでプレーヤーをコートに導く。 副審及び記録員は、それぞれスターティングラインアップを照合する。 その後、副審はボールを最初のサーバーに送る。
0分前	最初のサーバーは、主審のサービス許可のホイッスルによりサービスを行う。	主審は、サービス許可のホイッスルをする。

<セット間>

	チーム	主審・副審
セット終了時	セットが終了したら、コート上のプレーヤーは、エンドライン上に整列する。 主審のホイッスルで、それぞれのベンチに戻る。	主審は両チームのプレーヤーがエンドラインに整列したら、ベンチに戻るようホイッスルで合図する。
2分30秒前	プレーヤーは、副審のホイッスルにより、ベンチから直接コートに入る。	副審は、記録員の合図を受けて、両チームにコートに入るようホイッスルで合図する。 副審と記録員は、その後直ちにスターティングラインアップを照合する。

<試合終了後>

	チーム	主審・副審
速やかに	試合が終了したら、全プレーヤーはエンドライン上に整列し、主審のホイッスルによりその場で挨拶（一礼）をする。 チームキャプテンは記録用紙にサインし、主審と副審に感謝の挨拶をする。 チームは直ちにベンチから出る。	主審は全プレーヤーをエンドライン上に整列させる。 主審は主審台を降り、副審が定位置に付いたらホイッスルで、両チームに挨拶をさせる。 記録席に戻り、両方のチームキャプテンに記録用紙にサインをさせ、その後記録員の記録用紙への記入を完了させる。

※消毒は試合終了後競技役員が行う